

令和5年度 学校評価

1. 教育方針と重点目標

学校教育 目標	(1) 工業を中心とする基礎的、実践的な教育（ものづくりを中心とした体験学習）を通して、工業人としての自覚を持ち、その使命と責任を全うできる実践力のある人間を育成する。 (2) 人間としてお互いの人格を尊重し、明るく、楽しく、いじめや体罰のない、安心・安全な学校づくりを目指す。 (3) 自主活動（生徒会活動・ボランティア活動等）を通じて、自主・自立の精神を鍛え、健康の維持と体力の増進を図る。 (4) 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを目指す。		
	【長期目標】 地域に根ざした工業の専門高校として、地域産業の中核を担える知識と技術と行動力を持つ人材育成に努める。 【中期的目標】 (1) 確かな技能を基に、自ら考え開発する姿勢を養う。 (2) 円滑な人間関係が築けるよう、コミュニケーション力を高める。 (3) 信頼される人材として義務と責任を果たす。 (4) 実践的知識・経験を深めるために企業連携、地域連携を発展させる。		
重点 目標	1 基礎学力の向上と探究的な学びの定着を図る。 2 進路意識を高め将来設計を考えさせるキャリア教育を充実させる。 3 生徒に活躍の場を与え、やる気と自信、達成感と成就感を持たせる。 4 生徒会、部活動、地域貢献をとおして自己形成を図り、コミュニケーション能力を高める。 5 すべての子どもの学びの保障を推進し、いじめ等のない明るく開かれた学校を目指す。 6 体力の向上とスポーツの振興、特に部活動の活性化を目指す。		
総合評価	新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、多くの分掌で行事等の見直しを図ることができた。新たな学校教育活動への取り組みや、安心・安全な学校生活を送るために、職員全体で共通認識のもと、協力しながら遂行できた。また、生徒育成方針の柱である「ものづくりを通した人づくり」に向け、授業（実習・課題研究等）やクラブ活動等で、生徒の主体的な学びを支援し、一人ひとりの成長に繋げることができた。		

2. 自己評価

(1) 教育活動領域における重点目標

<評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分>

対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
教育課程	教育課程委員会	(1) 「魅力ある教育課程」の編成と実施についての研究	生徒にとって魅力があり学習欲求を成就できる教育課程	A	令和6年度入学生教育課程について、各科で検討、確認をし、教育課程表をまとめることができた。令和6年度に行われる選択科目導入に向けて、時間割編成上の運用面について検討が課題である。
		(2) じっくり募集の状況に対応した教育内容の検討	各科目内容を生徒が深く理解した上での学科選択	A	令和6年度入学生教育課程に対応した選択科目に向けて、選択群の科目配置について検討を行った。令和6年度の時間割編成上の運用面で支障がないか、研究と検討が必要である。
		(3) 生徒の実態や進路に対応した選択教科設定についての検討	① 生徒がスムーズに教科・科目選択するための計画 ② 生徒の進路希望に即した科目選択	A	学年集会における選択科目説明会を実施し、個人面談、三者面談を経て、丁寧な対応で科目選択を行うことができた。
学習指導	学習特活委員会	(1) 授業実践の改善促進	公開授業等をおとした授業改善の実施	B	初任者研修やキャリアアップ研修の先生方の研究授業を通して、授業改善の方法について多くの先生からの意見を聞くことができた。
		(2) 外部教育力の積極的活用	社会人講師等による授業実践	B	12月に1年生を対象にしたうみがめプロジェクト(駒ヶ根市と連携)で、駒ヶ根市内の企業見学を行った。他学年についても、社会人講師等を招く機会を設けられるようにしたい。
		(3) LHRの計画的・実践的実施	円滑なLHR運営の支援	B	LHRに行事が等が入りLHRの時間を確保できない日もあった。今後も他の係や委員会と協力して時間確保・内容の充実を図ってきたい。
		(4) 学力向上の推進	学力向上・資格取得のサポートとその評価	B	進路保とも協力し、学期の初めに行う実力テストの前に学習強化期間を設け、朝の15分間を学習の時間に充てた。今後も学習時間の確保・学力向上に取り組むたい。
生徒指導	生徒指導係	(1) 生徒理解に努め、積極的な生徒指導の推進を図る	① 生徒個別面談・家庭訪問 ② 係、学年を中心にした生徒指導	A	問題行動発生時は職員間の連携を素早く取ることができ、スピード感がある対応ができた。課題として、特性のある生徒への生徒指導の在り方や対応があげられる。
		(2) 基本的な生活習慣の確立により、社会道徳の育成を図る	① 通学路指導 ② 遅刻・中抜け指導	A	通学路指導を実施した。昨年度よりも学校が示している通学路を使用する生徒が多く、指導の成果が表れた。来年度も風紀委員会と連携しながら引き続き実施したい。
		(3) 自主性を育み、意欲的かつ計画的な生活の展開を図る	① 全校集会・学年集会での啓蒙 ② 「生活だより」の発行	B	終業式での講話はその時に起こっている話題を中心に話ができた。生活便りは予定通り年3回発行した。引き続き発行していく。
		(4) 交通安全指導	① 交通安全講話の実施 ② 自転車・バイク車両点検 ③ バイク安全運転技術講習会の実施 ④ 通学路交通安全指導 ⑤ 自転車用ヘルメット着用の働きかけ	B	自転車点検は年2回実施した。多くの生徒がルールを守っている。交通安全講話は駒ヶ根警察署に依頼しコロナ対策により各教室にて実施。バイク許可者には日程を調整し講習会を実施。
	いじめ対策委員会	いじめに関する調査	① いじめに対するアンケートの実施 ② クラス担任との連携	A	いじめを早期発見することや生徒の実態をつかむため生活アンケートを年2回実施。大きな問題はなかったが本心を書かない生徒や未提出の生徒もいる。その後の面談は大きな課題である。
生徒会活動	生徒会係	(1) 生徒による自治の実現 生徒会行事の計画・立案・準備・運営	① 生徒によるマナーの向上 ② 生徒の自主性を活かした行事の運営の手助け ③ クラブ活動の活性化	A	執行部を中心に、各生徒会行事の企画・運営に責任をもって主体的に取り組む姿が見られた。駒工祭では入場者制限を行わない形の開催となり、各展示、発表、企画についてはさらに充実したものとなった。
		(2) 校内外の美化	① 通常清掃・大掃除・学校作業への取り組み ② 通学路・伊那福岡駅広場の清掃	A	美化委員を通してクラスへゴミの分別をするように促した。年度末に向かうにしたがって分別がしっかりと行われるようになってきた
進路指導	進路係	(1) 適性の発見に導く	① 進路ノートの作成 ② 講演会・説明会の企画運営	A	①毎年2年生の4月に進路ノートを配布し、進路指導に役立てている。 ②3年生は5月に就職希望者は上伊那産業視察(上伊那の企業)、進学希望者は本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスを実施した。1月には1年生を対象に進路講演会を企画し、セイコーエプソン(株)の講師の方々に働くことや高校生活の過ごし方について講演をしていただいた。2年生は1月に就職希望者は上伊那高校内企業説明会(いなっせ)、進学希望者は県さんぽう主催の進学説明会に参加した。2月には就職希望者はTSUNAGI企業勉強会(フワワーバース)、進学希望者は本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスに参加した。進路実現に向けての取組をスタートすることができた。
		(2) 自己の確立に導く	① 進路通信の発行 ② 学力向上策の提示と充実 ③ 進路情報の提供 ④ 就業体験の企画運営	B	①進路通信は定期的な発行を計画したが、思うように発行できなかった。いろいろな進路に関わる情報発信をするツールとして活用できるようにしていきたい。 ②学力向上策の一環として、学習特活委員会と連携し、実力テストへの取組を充実させ、基礎学力の向上を図ることができている。継続していきたい。また、大学進学希望者の補習を各教科の協力を得て行うことができた。その結果国公立に1名の合格者を出すことができた。 ③GoogleClassroomを利用して、生徒に情報発信を行うことができた。 ④就業体験は、2年生90名が63社で体験を行った。多くの企業の協力により、無事行うことができた。また、南信工科短期大学に協力いただき、進学希望者への講義及び実験を数日間行うことができた。生徒にとってはとても貴重な機会とすることができた。
		(3) 進路の実現に導く	① 進路情報の集積・充実 ② 面接・論文指導の充実 ③ 学校・会社見学の充実 ④ 関連部署との連携 ⑤ 新規進路先の確保	A	①企業調べや見学の参考となるように企業ガイドブックを3年生の就職希望者と2年生全員に配布した。また、進学情報誌を購入し、学校等に使用している。 ②就職・進学とともに面接指導や履歴書・小論文などの指導をしっかりと行うことができた。就職支援員の方に面接指導をしていただき、外部の方の意見を聞くことができ、生徒には大いに参考になった。また、試験対策問題集も充実させ、就職・進学の試験に対応できるようにしている。 ③新型コロナウイルスが5類に変更されたことで、オープンキャンパスや企業見学が従来の形で実施することができた。 ④就職については、ハローワークや上伊那職業安定協会などと協力して、企業説明会を開催するなど、連携を図りながら生徒の就職支援を行うことができた。 ⑤企業説明会や就業体験に新しい企業にも協力していただいた。新しい県外の企業への就職も内定した。
		(1) 生徒の心のケアのための支援	① 学年会・担任・各係との連携 ② スクールカウンセラー、家庭、関係諸団体との連携 ③ 生徒の変化に気づき、チームでの情報共有、必要な支援の実施	A	各学年、担任、保護者と連携し生徒の変化に気づくことができた。生徒と保護者の要望に応じて様々な機関と連携し支援を行うことができた。
		(2) 特別支援に関する情報の提供と研修	① 職員で情報共有、様々な会で提供される情報や資料を共有することによる、理解の深化。	B	支援を必要とする生徒の情報共有を行うことができた。多様化する生徒の理解を深めるための研修会を行うことは、次年度の課題である。

その他	図書・視聴覚	(1) 図書館利用の促進	① 読書の動機づけとなる活動（コーナーの設置・ブックトーク・広報活動） ② 利用者のリクエスト・要望への対応	A	① コーナーの設置や広報活動を通して、本に触れてもらう機会を作ることができた。 ②利用者のリクエストや要望には可能な限り応えることができた。
		(2) 放送機器の管理	放送室・体育館の機器管理	B	適切な機器の管理と運用を行うことができた。
	情報システム	(1) 高安定性の情報ネットワーク環境の提供と管理	① 県データサーバーの有効活用とセキュリティの向上 ② サーバの強化と定期的なメンテナンス	B	県データサーバーの活用方法や、データの取り扱い、セキュリティ意識向上についての周知徹底ができていた。
		(2) ICT機器と生徒Gアカウントの管理	① ICT機器の整備・管理と有効活用検討 ② 生徒用Gアカウントの適切な管理	B	ICT機器を活用した授業やその他の学校活動が定着してきている。機器整備に関してもスムーズに行えた。
		(3) 校務支援システムの立ち上げと運用	① 校務システムの円滑導入と業務効率化 ② 校務支援システムの管理と運用	B	出欠や成績について、未登録の場合の確認がスムーズに行うことができた。 入力画面の説明を画像等を使用し、分かりやすく説明した方がよかった。
	人権平和係	人権感覚を持ち、平和を希求する生徒の育成	① 全校生徒対象の人権・平和教育を企画及び実施 ② 教科、学年、HRにおいて、人権平和教育の実施	A	全校一斉に各教室でLGBTを題材にした動画を鑑賞し、人権について深く考えたほか、学年ごとで人権に関する講座などを実施し、人権意識を深めることができた。
	保健美化係	ゴミの分別について理解を深めさせる	① 毎日の清掃時にゴミ収集場所において確認 ② 資源物分別の徹底	A	美化委員によってきちんとゴミが分別されているか確認し、分別が行われていない場合は分別を行い該当クラスには注意を促した。 資源ごみはまとめられていないものが若干あったが注意喚起をすることで減っていった。
	広報・学検係	(1) 中学校訪問・入試説明会・体験入学・オープンキャンパス・保護者説明会などを企画し、志願生徒確保のために本校の教	① 本校の教育内容や魅力を広く伝えるための活動 中学校、中学生、中学生の保護者などへの本校の教育内容や魅力などの情報の発信	B	・予定した行事を実施することができたが、志望者数の増加には直接的に結び付けられなかった。 ・体験入学を1日で実施することを試みた。次年度も継続して魅力のアピールができるよう努めた。
		(2) (1)を行うために必要な広報資料作成や整備	① 本校の教育活動や魅力などを伝えるために必要な資料の準備・作成 ② わかりやすく魅力ある資料作成	A	・（1）と同様実施はできたが、志望者の増加につながる工夫を模索したい。
		(3) ホームページの定期更新と適切な情報公開による、効果的な活用の促進	① 定期的なTopicsの更新及び学校の取り組み状況の発信 ② 掲載内容の整理及び適切な情報の掲載	A	・内容は時宜に合わせ更新できた。 ・HPを見てもらえるような（HPを開いてもらえる）広報活動が必要だと思われる。
		(4) 前期・後期の入学者選抜業務の円滑かつ厳正な企画及び運営	入学者選抜業務の円滑かつ厳正な企画及び運営	A	・特別な配慮が必要な受検生への対応が必要になるが、適切な運営に努めたい。
	学科選択委員会	学科選択実施に関する企画	① 学科選択に関わる準備 ② 生徒・保護者への説明	B	①行事予定に学科説明会を入れるなど、年間計画に合わせて指導することができた。 ②学科決定までの手順など問題となるようなことはなく、生徒からの不満もなかった。
	高校再編準備係	高校再編に向けて本校の将来構想の検討と再編実施懇話会への対応	① 上伊那総合技術高校再編実施計画事務局会議への出席対応 ② 上伊那総合技術高校再編実施計画懇話会への対応 ③ 再編に関する校内意見のとりまとめ	A	①事務局会議に10回出席し、他校との意見交換を行った。 ②再編懇話会に6回出席し、担当係業務を行うなど対応した。 ③毎週校内係会を行い、意見交換及び校内意見集約を行うなど、活発に活動した。

(2) 学校運営領域における重点目標

＜評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分＞

対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
進路とキャリア教育の推進	学校評議員運営委員会	地域に根差し、開かれた学校づくりを目指した学校評議員会の開催	① 年2回以上の開催 ② 意見要望の反映	B	本年度は、6月と2月の年2回を校内で実施することができた。学校の様子をお知らせするとともに、意見交換を行った。学校自己評価の外部評価をして頂く。
	保護者との連携	(1) 学校と家庭との緊密な連絡・連携	① 学年・学級PTAの重視と充実 ② PTA会報の発行、メール配信システムの有効活用	A	①感染症対策の状況が変わる中、できる限りの活動を行った。②PTA会報の発行を、従来通りの3号に戻すことができた。
		(2) 会員の交流、親睦及び研修	スポーツ交流会・駒工祭PTA展	A	いろいろな制約の中で、参加者は少なめだったが開催することができた。
安全管理	防災係/教頭	(3) 教育環境の整備	PTA作業の実施	A	役員のための作業になったが、制約の中では最大限出た。
		(1) 地震防災計画の策定	防災訓練の実施	B	6月に地震を想定した訓練は実施できたが、火災を想定した10月の訓練はインフルエンザ流行により中止となった。訓練中止の場合なども想定した検討が必要である。
		(2) 消防・防災器具の管理	消防防災器具の定期的な点検	B	夏季休業を利用し計画的に総合点検を実施することができた。
健康管理	保健美化係	(3) 安全管理	① 全職員によるマニュアルの確認 ② 災害時に帰宅困難となった生徒のための食料備蓄	B	①年度当初に安全管理マニュアルの見直しを図り、全職員に共有することができた。 ②今年度から入学時に防災セット購入することとなった。2・3年生も2食分の非常食を購入し、全校生徒分を備蓄することができた。
		(1) 保健教育	保健学習 ・ 科目保健における学習 ・ 保健だよりの発行(保健委員会) ・ 外部講師による講演会(性教育・薬物乱用防止教育)	A	・保健体育「保健」授業(1・2年)での保健教育の実施 ・保健指導を兼ねた「保健だより」を継続的に発行した ・1年「性教育」助産師・2年「薬物乱用防止教育」警察署による外部講師をお願いし講演会を実施した
		(2) 保健管理	心と体の健康管理 ・ 健康診断の実施と事後指導 ・ 健康相談(学校医、他外部機関との連携) ・ 感染症及びその他の疾病予防	B	・ 定期健康診断の実施とその事後措置を計画的に行うことができた ・ 必要時には学校医へ相談等で連携をとった ・ インフルエンザ・コロナ感染対策等の疾病予防に努めた
	学校衛生委員会	(1) 健康診断受診について	対物管理 ・ 学校環境の把握と整備 ・ 人間ドック・定期健康診断の受診を職員への呼びかける	B	・ 学校薬剤師さんによる環境衛生検査の実施、そして、結果による不備各所改善のお願いをした
			① 調査実施 ② 調査結果の評価	A	・ 予約は対象者全員100%。100%実施を目指す
			① 調査実施 ② 調査結果の評価	B	・ 学校安全衛生委員会による点検を夏休み中と冬期に実施し必要箇所の修繕につなげた。
	各係・委員会	(2) 職員の職場環境の把握	疾病予防、健康の保持増進についての支援	B	・ ドック受診勧奨ができた。
		(3) 職員健康管理・疾病予防			
その他	ICT活用研修委員会	教員研修の充実	校内外の教員研修への積極的な参加	C	センター研修(指定・選択)及び専門分野の研修に参加し、スキルアップに繋げることができた。校内で救命救急(AED)講習など開催したほか、職員会に合わせ非違行為防止などのミニ研修を実施できた。 研修が形骸化しないよう、定期的な職員研修のあり方の検討を次年度以降の課題とする。
		(1) ICT機器の授業への積極的活用	① オンライン学習に対応するために、授業におけるICT機器の積極的な活用 ② Googleサービス等の積極的な活用	A	休校時、GoogleクラスルームやGoogleMeetを使った課題、オンライン授業を実施した。各種アンケートや、生徒会行事等でもGoogleサービスの積極的な活用を行った。オンライン学習に適した他のサービスについて導入検討を進めていきたい。
		(2) 職員の研修	定期的な研修の実施、職員の意識向上	B	職員連絡会をオンラインで実施した。また、GIGAスクール支援員による個別の研修を実施した。
		(3) 校内ネットワーク環境の安定	① 校内ネットワークの維持 ② 機器導入、また導入後のスムーズな運用	B	校内ネットワーク安定利用に向けた維持管理を行っている。新入生向け端末の故障が多く、また校内ネットワークへの接続設定に時間がかかり、次年度以降スムーズに進められるよう対策を考えたい。
		(4) セキュリティおよびリスク情報の提供	① システムチェックの奨励 ② 随時提供	A	情報セキュリティ研修の受講により、データの取り扱いやリスクについての意識向上をはかることができています。